

未来を守る青少年防災フォーラム2024

日時 令和6年9月15日（日）9:30～16:30

場所 山形県青年の家

対象 県内の中高生、大学生、ボランティアサークル指導者
福祉関係者、地域防災関係者 など ※定員50名程度

内容 ワークショップ形式の防災講座

申込 高校の場合は、学校ごとにとりまとめ、別紙申込書に記入（入力）し、FAXまたはメールで申込んで下さい。それ以外は個人での申込となりますので、下記QRコードから申込んで下さい。

申込締切...9月2日（月）

参加料 490円（昼食代、保険料）

※応募多数の場合は人数調整のお願い又は抽選となる場合があります。

持ち物 筆記用具、内履き、スマホやタブレット端末、イヤホン

昨年参加した高校生たちの感想

山形では災害は起こらないだろうと思って考えていなかったが、今回、災害発生時はどんな状況になるのか実感することができ、自分事と考えることができた/防災のために自分にできることなんてないと思っていたが、今日のセミナーを通して高校生の私だからできることがあるんだと感じた/「若者の行動が大人を動かす」ということが強く印象に残った/生きるってなんだろうと改めて考えさせられた。生きているだけで素晴らしいと思った/災害で心身ともにボロボロになったはずの高校生たちが先生や学校のために企画を考えてやり遂げたことに本当に感動した/若者だからこそできること、大人だからこそできることを協力してやって、今の日本を守り続けていきたい/本当に心に刺さるものがあった。これは全員が知っておくべきだと思った/私たちも復興の力になれるんだと気づいた/学校で防災について探究していて、まとめるため良い材料となった

こんな人に特に
おススメ

- ・将来、「命と向き合う」看護系や福祉系の進路を考えている（面接・小論文対策にも！）
- ・公務員を目指している
- ・地域づくり等のテーマで探究学習をしている
- ・地理総合を履修している
- ・災害ボランティア等に関心がある
- ・現在、防災に関わる業務に就いている

個人での
申込はこちら



講師 齋藤 幸男 氏（東北大学非常勤講師・元 宮城県石巻西高等学校校長）

2011年3月11日の東日本大震災発生時に石巻西高校の教頭として避難所運営にあたる。当時石巻西高校は正式な指定避難所ではなかったが、人道的な立場から教職員だけで44日間の避難所運営を行った。体育館は遺体仮安置所・検視所となり、校舎を開放して地域住民の避難生活を支援した。さらに、11名の生徒が震災の犠牲になるなかで、教職員は生徒に寄り添い続け、生徒はともに支え合いながら学校の教育活動を再開していった。2012年に同校の校長となり、2015年に退職。全国各地を講演や教員研修などで飛び回り、震災の教訓を語り継ぐ活動を通して「いのちと向き合う教育」の大切さを訴えている。

著書「生かされて生きる～震災を語り継ぐ～」(河北選書)は、昨年全国公開された映画『有り、触れた、未来』の原案となった。